

## 「視覚障害研修講座」に多数の御参加ありがとうございました。

第1回 研修講座 平成22年8月20日（金）

横浜市立新羽小学校 教諭 道村 静江氏

「盲学校から発信した漢字学習法」「点字の初期指導」

第2回 研修講座 平成23年1月9日（日）

かわばた眼科医院長 眼科医 川端 秀仁 氏

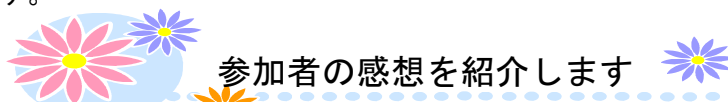
「視知覚に困難のある子どもの理解と支援」

盲学校地域支援センターでは、視覚障害のある子どもたちに加え、「見ること」に困難があることで、読み書きをはじめとするさまざまな学びにくさに直面する子どもたちの支援に取り組んでいます。

「見ること」の視点から子どもたちを理解し支援することについて、今回の研修講座に参加していただいた先生方を中心に、地域の中で実践が広がり、子どもたちの支援の充実につながっていくことを願っています。盲学校地域支援センターは、視覚の観点で各地域の先生方とともに支援を進めていきたいと思えます。

今年度の第1回と第2回の研修講座には、計180名の方に御参加いただきました。

参加者は小中学校や特別支援学校（近県の視覚障害関係校を含む）関係、医療関係（眼科医師、視能訓練士）、療育機関関係、保健機関関係、保護者の方々と幅広く、関心の広がりを感じますとともに、切実なニーズのあるところへの確に情報を届けることの必要性を感じています。



### 参加者の感想を紹介します

講演「盲学校から発信した漢字学習法」道村 静江 氏

「漢字の学習の仕方が分かるようになる」というのはすごいことです。低学力、発達障害の子どもを取り出し指導などでも使えると思いました。（小学校教員）

漢字が書けない、読めない子どものためにたくさんの教材を作ってきましたが、お話をお聞きし改めて教材をどのように作ればいいのか整理できました。6年間を見通して教師自身が「漢字」について理解することが大切だと痛感しました。

（小学校教員）

漢字については自分が習っていたのと全く違い、軽いカルチャーショックを受けました。覚えろ！書きなさい！では嫌気がさすのも分かります。漢字の成り立ち、意味をじっくり理解できたら私も楽しく勉強できたかもしれないと感じました。

（特別支援学校教員）

複雑に見えた漢字が「部品」に分けられ、それぞれの組み合わせで成り立っていることを教わり、教えることに展望がもててきました。（他県盲学校教員）

## 講演「点字の初期指導」道村 静江 氏

点字は、初めて実物を触りました。かなり間隔の広いものですらかなかなか難しく、普段どれだけ視覚に頼っているかを身をもって知らされました。あつという間の一日でした。  
(特別支援学校教員)

点字の読み書きをすでに獲得してる中学生について、どんな風に習得してきたのか知りたかったのですが、点字用紙を実際に触ってみて文字の判別の難しさが分かったように思いました。「鏡文字の混乱」などととてもよく分かりました。  
(中学校教員)

## 講演「視知覚に困難のある子どもの理解と支援」川端 秀仁 氏

初めて聞くことが多く、勉強になりました。視覚と発達には密接な関係だったのですね。LD児を受け持つ担任としてLDへの指導方法をもう少し聞きたかったです。中学では漢字より英語が大変です。音韻の問題との区別が難しいです。  
(中学校教員)

見えているのに見えていないと思われる生徒や漢字、アルファベット、単語の読み書きができない生徒に数多く出会うことがあり、どうしたらよいかと悩んでいました。今回のお話はとてもよくわかり、実践に生かせるものでした。  
(中学校教員)

物は見えているものの「気になる目の動きがある子ども」がいます。お聞きした観点で観察し有効な支援の方法を探っていきたいと思います。  
(特別支援学校教員)

遠くでも見えているのですが、ものすごく近くのものが見えなかったり、見えるときと見えないときがあったりして不思議に思っていました。講演を聴いて、様々な見え方があることがわかり、また、色々なトレーニング法や効果的な文具や教材があることも分かりました。  
(中学校教員)

視機能や視知覚の支援を考えると、的確にアセスメントをする必要を感じています。かわばた眼科や大阪医科大学LDセンターのような医療機関と学校との連携がとても大切に思いますが、なかなか難しいです。  
(盲学校教員)

